

《資料館便り》

平成 27 (2015) 年
2 月号



石川町立歴史民俗資料館は、町の文化財保存と活用、町民の教育、学術及び文化の発展を目的に、昭和 49(1974) 年秋に開館しました。公的施設としては、県下のさきがけの一つです。

○「資料館便り」編集：発行 石川町立歴史民俗資料館
〒963-7845 石川町字高田 200-2 0247 (26) 3768

三森たか子さんの業績



三森たか子さん

○三森たか子さんは大正 10 (1921) 年、東京で生を受けられました。先ごろ、石川町に仏像の修復や鉱物・岩石の資料館建設のためにと多額の寄付をされました。

三森さんは戦時中本町に疎開され、戦後は長く石川郡内の小中学校で教壇に立たれました。理科教育、中でも特に鉱物や岩石の分野

に造詣が深く、子どもたちへの愛情に満ちた指導が高い評価を受け、文部科学省から表彰を受けておられます。退職後は当歴史民俗資料館にも社会教育指導員として勤務され、町内の岩石・鉱物の収集と保存、地質調査に多大な貢献をされました。また、研究の成果を多数の文献に著し、石川の「石」のすばらしを世に紹介されました。先生のますますのご活躍をご祈念申し上げます。



○三森さんの主な著作紹介

- ・石川町鉱物調査報告書 第3・4集
- ・『鉱物の里 のぎざわ』
- ・『いしかわの石の物語』

※歴史民俗資料館で販売しています。

調査進展！ ～鉱物保護収集委員会～

和久観音山での調査



ました。この中には現在保存会の活動があり、保護・教育普及活動が行われている所もあります。しかし一方で、地質学上貴重な地点でありながら、まったく忘れ去られている場所も確認され、保護・保存の大きな検討課題となりました。鉱物保護収集委員会は、今後も町内各所の調査を進めると同時に、将来の「鉱物館」建設を視野に、他県の博物館等先進地域視察も計画しています。

○「鉱物を活かした町づくり」に寄与するため、今年度再発足した鉱物保護収集委員会の活動が進んでいます。主な活動は、町内の天然記念物や旧鉱山跡を調査し、鉱物・岩石の保存・保護、教育普及を考える資料を集めることです。

そのためこれまでに、和久観音山、石川山、北山形球状花崗岩、竹柄かんらん岩採掘地等を巡回し



↑ 北山形での調査

いしかわの「お宝」 4

「資料館便り」では、町に伝えられて来た貴重な文化財や、鉱物や動植物などの天然記念物を紹介いたします。

福島県指定重要文化財

「水神平式土器」(石川町所蔵 福島県指定史跡鳥内遺跡第19号土坑出土土器)

～2000年以上前、東海地方(愛知県・静岡県)からやって来た「弥生土器」～



↑ 水神平式土器(資料館三階)

○鳥内遺跡は昭和45年(1970)に発掘調査され、縄文時代後期から弥生時代にかけての重要な遺跡であることが分かりました。

調査では多くの土器が発見され、その中には、他の地方から運ばれた土器も確認されました。それが「水神平式土器」です。

「水神平式土器」は愛知県豊川や静岡県天竜川付近で広く作られていた土器です。どの土器も、形や作り方、模様つけ方は他の地方から伝えられることは当然です。しかし、鳥内遺跡

から出土した土器は、形や模様がそっくりなだけでなく、使われている「土」が、石川の「土」とは全く違い、砂鉄を含んでやや白みをおびた東海地方の「土」そのものだったのです。これは土器自体が運ばれて来た証拠です。2000年以上も昔(弥生時代前期)に、いったいどのようにして、だれがこの土器を石川の地に運んで来たのでしょうか。古代の人々の活動の広さ、奥深さがしのべられます。

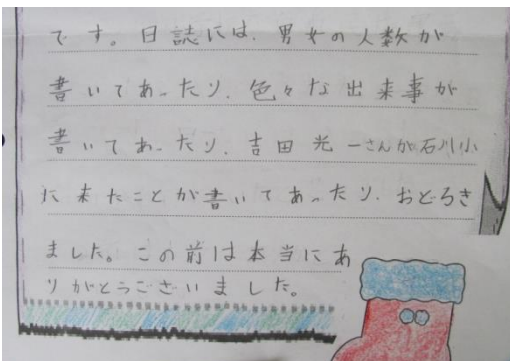
自由民権運動と学校の歴史を勉強! ～学校の授業をサポートします!～

○今年度も、東京都や宮城県の高校をはじめ、たくさんの学校が授業の一環として来館しています。

先ごろ、当館が実施している学校古書類調査で発見された、石川小学校の明治10年代の「学校日誌」をもとに、同校6年生が、母校の歴史や石川地方の自由民権運動について学び



↑ 明治時代の資料で、母校の歴史を学習



↑ 吉田光一(民権活動家・初代石川町長)が来校していた事実を驚く児童の感想文

ました。

○授業のサポートとして、当館では先生方のご希望にお応えできるよう、事前に学習のねらいや内容について、綿密な打ち合わせを行います。鉱物や歴史・民俗資料を実際に見たり、触れたりするこ



↑ 石川小の明治10年代「学校日誌」

とで、教室での授業とは違った角度から深い学びを体得してもらえれば幸いです。